

ブルガリアの演劇ポスターとデザイナー

美術工芸資料館 技術補佐員 山本彩

第二次世界大戦後、社会主義体制下にあったヨーロッパ諸国では、商業的なグラフィックデザインや広告は制作されず、映画、演劇、展示会、コンサート等のイベントのための文化ポスターのデザインが発展した。東欧演劇は社会主義国家のもとで国家の助成を受けており、ストレートプレイや歌劇を中心に、人形劇や児童劇なども盛んな傾向にあった。これらは国民の日常的な娯楽であり、ポスターも数多く制作された。今春、当館で開催中の「ヨーロッパの演劇ポスター ポーランド・ドイツ・ブルガリアを中心に」(2022年2月21日・4月23日)では、1960年前後から1980年代にかけて制作された演劇ポスターを展示している。

第1室では、1950年代から1980年代までのポーランドの演劇ポスターを展示している。ポーランドのポスターには、皮肉やユーモア、グロテスク、抒情詩的な表現を含む抽象的なポスターが多く見られ、観る側の想像力を掻き立てる。これらの芸術性の高いポスターは「ポーランド派」と呼ばれて、海外からも高く評価され、諸外国の人々に影響を与えてきた。

第2室では、これまでほとんど展示する機会がなかった東ドイツとブルガリアのポスターを展示している。

東ドイツの部では、ベルリンの主要な劇場と、東ドイツ各都市の歌劇場のために制作された演劇ポスターを展示している。1960年代から1980年代に制作されたポスター群には、機能主義的なデザインと写真を用いたポスターが含まれる特徴に加え、特にイラストレーションの分野でポーランドポスターの影響が色濃い。

ブルガリアの部では、1980年代の演劇ポスターを展示している。日本国内では現在までブルガリアのグラフィックデザインを主眼とした展示機会はごく稀であり、当館においても今回が初めての

展示となる。

第二次世界大戦後すぐのブルガリアは経済的に貧しく、グラフィックデザインは周辺諸国に比べ遅れをとった。1970年代に入ると経済が活発化し、生活水準が向上したことに伴い、独自のグラフィックデザインが発展した。各種団体が求めていたサインやシンボルもこの時期に数多くデザインされている。検閲を避けるために比喩を用い、また印刷の質があまり良くなかったため、あえて色数を抑えた明快なデザインのポスターが多い。ポスターはブームになり、国際的なポスターデザインコンペでブルガリアのデザイナーが賞を受賞するようになった。

演劇はブルガリアポスターの主要な分野のひとつである。当館所蔵のブルガリアポスターはすべて1980年代制作のもので、162点のうち69点が演劇ポスターに類し、ソフィアの国立歌劇場や風刺劇場、地方都市の劇場のポスター等がある。演劇ポスターは検閲の目が厳しくなく、挑戦的なポスターが制作できた。1980年頃からは演劇ポスタービエンナーレが開催された。ほかの収蔵ポスターは、映画ポスター34点、展覧会ポスター33点(中には演劇ポスター展もある)、会合や行事等の文化ポスターである。ポスターの多くはイラストレーションを主体としており、写真はほとんど用いられない。作者の多くがソフィア美術学院(National Academy of Art)で学んだ芸術家やデザイナー、イラストレーターである。

以降では、展示中の演劇関連ポスターの中から、主要なブルガリアのデザイナーを紹介する。

活動した。色彩に富んだ華やかなイラストレーションのオペレッタやミュージカルポスターを手掛けた(図4)。

ボジダル・ヨノフ(1942・2012)は1968年に美術学院を卒業し、1975年以降ソフィア劇場の仕事に従事した。ポスターのほか、装飾美術や舞台装置も担当した。

ボジダル・イコノモフ(1943・2016)は、美術学院でポスターを専攻し、1970年に卒業。1979年以来、国立オペラ・

バレエ專業のポスターデザイナーとなった。1980年代からポスター作品にカラージュを積極的に用いている(図5)。1995年にはソフィア国際ステージポスタートリエンナーレを設立し、1999年のギンザ・グラフィック・ギャラリー「現代ブルガリアのグラフィックデザイン展」のキュレーションを務めた。

は活字デザイン、シンボル等。「真実のクラブ」(図6)の芝居内容は不明ながら、マイクが鉛筆削りを通して、草花に変化するイラストレーションが興味を掻き立てる。

ルバ・ルコヴァ(1960・)は、ソフィア美術学院を卒業し、現在はニューヨークを拠点に活躍するグラフィックデザイナーである。コントラストの効いた明快で力強いデザインを持ち味とし、近年は社会変革を目指すメッセージポスターの制作に取り組んでいる。

参考文献

- ・アイデア編集部編(1990)『東ヨーロッパのグラフィックデザイン』誠文堂新光社
- ・ボジダル・イコノモフ(1999)第156回「現代ブルガリアのグラフィックデザイン展」ギャラリートーク[Online] <http://www.dnp.co.jp/gallery/gallerytalk/ggg/gt156.html> (最終閲覧日:2022.1.24)
- ・Vigoutov-Frey, N. & Pinner, M. (2000). Panoptima and Stages in Development: Theatre in Bulgaria. An Introductory Overview. *Theatre Research International*, 25 (2), pp. 121-128.

個別作家情報

- ・ <https://nha.bg/bg/stranica/zloja-plakat-80-godini-ot-rojdenico-ne-aven-stareishinski>
- ・ <https://nha.bg/en/page/poster-exhibition-80-years-prof-icdimi-elchatarov>
- ・ <https://nha.bg/en/page/exhibition-poster-80-years-prof-dimidar-casev>
- ・ <http://socinus.com/>
- ・ <http://stefankandev.com/>
- ・ <https://www.lukova.net/>
- ・ <https://www.titimalorbich.bg/>
- ・ <http://www.2022.1.24/>



図2
Kanchev, Stefan
【題】「パレードの倉庫」 1984, AN.4868-49

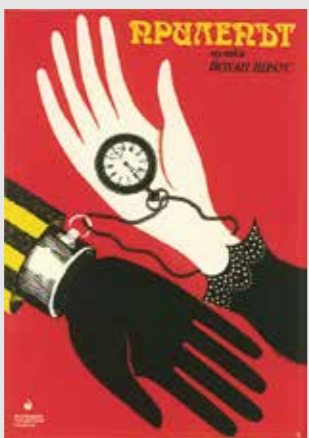


図4
Kanchev, Stefan
【題】「人生は時計」 1984, AN.4868-42



図5
Kanchev, Stefan
【題】「真実のクラブ」 1986, AN.4868-67



図1
Yonov, Bozidar
【題】「80年ぶりに演劇の舞台を飾る」 1984, AN.4867-83



図3
Yonov, Bozidar
【題】「人生は短い」 1986, AN.4868-60



図5
Yonov, Bozidar
【題】「現代ブルガリア」 1986, AN.4867-64